



小学校では一番可愛がられてきた1年生が、後輩を迎えてちょっとお兄さん気分

【小1プロブレム】授業中に私語が絶えなかったり、歩き回ったりと、小学1年生が集団生活になじめず、担任が学級運営に苦勞するという問題行動のこと。

もうすぐ1年生!

新入生が鳴浜小学校で交流会

「4月に皆さんが来るのを楽しみに待っています」と迎えられた、鳴浜保育所・鳴浜幼稚園の園児ら26人の子どもたち。入学式を目前に控えた3月10日、同小学校の1年先輩との交流会を行いました。

「小1プロブレム」が叫ばれる中、入学前の不安や環境の変化に早く慣れさせることを目的としたこの行事、指導する側の教師や、園児と交流する小学生たちにもメリットは大きいようです。先輩に手を引かれて、学校探検やお手玉、あやとり、剣玉など、8つの遊びを教わりながら過した、楽しく貴重な時間。小学校の整った環境の元、子どもたちの元気な声は明るく響いていました。

茶道は日本文化の一つです

日向小学校の茶道教室

日向小学校の5・6年生は、年間を通した総合学習の中で茶道教室を行っています。3月5日は6年生にとって最後の教室となりました。校舎内の和室に集った児童は、「喫茶去」と書かれた掛け軸にあいさつをし、姿勢を正して並んでいきました。茶道クラブの児童が代表でお手前をする中、全員に茶饅頭とうぐいす色の抹茶が順に配られていきました。茶道教室の講師は、表千家「宗郁会」の梅津先生です。先生は「専門用語が多いので、子どもたちに伝わるような言葉に置き換えて話しているのですが、なかなか難しいです」と話していました。作法の中には、感謝の心や相手思いやる心、そしてすべての動作に意味があることを熱心に伝えていました。



児童に指導するお弟子さん(手前)と、後ろで見守る着物姿の梅津先生



障がい者の作品を説明する青山先生。会場には、星野富弘さんの絵をはじめ、障がい者の作品が飾られました。

【ノーマライゼーション】高齢者や障害者などを施設に隔離せず、健常者と一緒に助け合いながら暮らしていくのが正常な社会のあり方であるとする考え方。

共に手を取り合う社会を目指して

ノーマライゼーション講座

NPO法人コスモスの花理事長 青山 春美先生を講師に迎え、2月28日、成東文化会館のぎくプラザで、ノーマライゼーション講座を開催しました。この講座は、人権教育の一環として、障がい者に対する理解を深め、障がい者と健常者が共に手を取り合う社会を目指して開催したものです。講演は、障がい者施設の作業風景などを記録したビデオ放映や、知的障がいや発達障がいを中心に行われました。合間には参加者50人全員が、大きな古時計などの歌を歌うなどして終始和やかな雰囲気が進められました。

参加者は、「地域の私達がサポートすることから、社会をよりよいものに変えていくのだと思います」との感想がありました。